令和７年度　第２回沖縄県がん診療連携協議会　小児・AYA 部会　議事要旨

日　　時：令和７年９月３日（水）　14：30～15：40
場　　所：ＷＥＢ会議
構 成 員：18 名

出 席 者：９名
大畑 尚子(県立中部病院 産科)、林 絹子(県立中部病院 腫瘍・血液内科)、屋宜 孟(県立南部医療センター・こども医療センター 小児血液・腫瘍内科)、徳元 亮太(沖縄がん教育サポートセンター)、古波津 万里子（沖縄県保健医療介護部 健康長寿課）、遠越 学(沖縄県教育庁 保健体育課)、喜納 綾乃(琉球大学病院 看護部)、北村 紗希子（琉球大学病院 第二内科)、増田 昌人（琉球大学病院 がんセンター）

欠　　席：９名
呉屋 光広(県立森川特別支援学校)、金城 敦子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、宮平 有希子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、比嘉 猛(県立南部医療センター・こども医療センター 小児科)、伊良波 史朗(県立南部医療センター・こども医療センター 放射線科)、親富祖 しのぶ(県立南部医療センター・こども医療センター 看護部)、銘苅 桂子(琉球大学病院 周産母子センター)、浜田 聡(琉球大学病院 小児科)、當銘 保則(琉球大学病院 病院整形外科)

陪 席 者：２名
砂川 幸枝(沖縄県教育庁 保健体育課)
石川 千穂（琉大病院 がんセンター）

【報告事項】

１．令和７年度 第１回小児・ＡＹＡ部会　議事要旨(６月９日)
資料１のとおり確認された。

2. 令和７年度　第１回妊孕性温存療法 WG　議事要旨（６月 24 日）
資料２のとおり確認された。

3.「小児・AYA 部会　委員一覧
資料３のとおり確認された。

4. アピアランス支援事業(沖縄県若年がん患者等支援事業)における市町村の参加状況について

5. 若年がん患者在宅療養生活支援事業(沖縄県若年がん患者等支援事業)における市町村の参加状況について
資料 4-1 と資料 4-2 に基づき、古波津委員より報告があった。若年がん患者在宅療養生活支援事業の参加市町村に関して、増田委員より、対象者は少ないので、全市町村に参加しても

らえるよう、必要な金額はそこまで多くないことを表すデータ等を提示しながら広報してはどうかとの提案があった。北村委員からも、実際利用している人数を提示してみてはどうか、との提案もあった。古波津委員から、事業担当者にも共有し、課内でも調整したいとの返答があった。

6. 「がん教育外部講師研修会」の後援について

資料5に基づき、徳元委員より報告があった。小児・AYA部会は、研修会の後援となる。研修会は２日間にわたり、１日目はオンライン、２日目は対面式となる。毎年、参加者は20～30名程で、現在、登録している外部講師は、４４名とのことだった。

7. 妊孕性温存療法WGの「沖縄県がん・生殖医療ネットワーク」への移行の進捗について

資料 6 に基づき、銘苅委員の代理で増田委員より、報告があった。現在、編成中となっており、ネットワークへ参加承諾を得ている施設は、部会開催当日時点では、名簿(案)のとおり。

8. がん患者に対する妊孕性温存療法についての説明依頼について

資料7に基づき、銘苅委員の代理で増田委員より、報告があった。診療ガイドラインについては、琉大病院のほうは、外来化学療法室の近くの資料室にも置いてあるので、そちらでも確認できるとの情報提供もあった。屋宜委員より、説明文書をアプラの患者さんで利用したかったが、がん患者向けだったので、アプラ向けでも作成していただけないか、と提案があった。増田委員より、説明文はがん患者のために使用している旨の説明を添えて、利用していただければ、とのことだった。

9. その他

特になし。

≪協議事項≫

1.第４次沖縄県がん対策推進計画(協議会版)における所掌分野の進捗及び今期の部会活動について

(１)指標の設定について

(２)測定できない指標について

(３)進捗状況について

資料8に基づき、増田委員より説明があった。まだ全てではないが、指標が少しずつ入ってきている。

個別のがん対策 3-5

指標　長期フォローアップ外来で長期にフォローアップしている小児がん患者数

(増田委員)　長期フォローアップしている患者さんがかなり少ない。

(喜納委員)　琉大の長期フォローアップ外来は、病棟からフォローアップ資格を持っている看護師を派遣している。現在は月１回となっているが、今年度、少しスタッフの数が増えたので、医師と話し合って、2週に１回などにしたら、フォローアップ外来

の人数も増えていくかと思われる。

個別のがん対策 3-4
指標　専門家の数

（増田委員）　専門医や専門看護師の数が少ないが、この辺はどうか。

（喜納委員）　専門看護師の方だが、琉大の方は、希望者もいるが、本人のライフステージの関係で、大学院に行ける状況ではないなど課題がある。

（屋宜委員）　小児血液がん専門医については、基本、日血（日本血液学会 血液専門医）を取得しないといけないが、南部医療センター・こども医療センターには受験資格がある医師がいない。あと数年で専門医制度が変わって、日血を取得しなくても受験できるようになるかもしれないが、しばらくは、琉大の医師が取得し、南部医療センター・こども医療センターという順番になると思われる。

個別のがん対策 4-1
指標　AYA 世代のがんの５年生存率（再掲）

（増田委員）　AYA 世代の生存率が一部悪い点については、人数の少なさが理由かと思うが、確認する必要がある。

個別のがん対策 4-5
指標　長期フォローアップ外来を設置している施設数

（増田委員）　国としては、患者が住んでいる市町村で、長期フォローアップを行えるようにとの方針ではあるが、全国的にもそうだが、県内でもデータ上は３施設で、受けている人数も少ない。

（北村委員）　造血幹細胞移植後のフォローアップについては、拠点病院の事業として、看護師研修を進めている。今後５年程で、県内で２施設～３施設フォローアップ外来が開設できればと思いながら研修を行っているところである。

2. 次回開催について

次回は、１２月開催予定。事務局より日程調整アンケートを行う。

3. その他

屋宜委員より、造血幹細胞移植後等のワクチン接種について、どこの市町村が行っているかいないかを示した一覧等はあるか確認があった。増田委員より、がんセンターでは把握していないとの返答だった。古波津委員より、他担当課で把握しているかもしれないので、確認して報告するとの返答だった。

以上